

厚生労働科学研究費補助金（がん臨床研究事業）
分担研究報告書
肛門扁平上皮癌に対する新規化学放射線療法の確立

分担研究者 高橋 慶一 がん・感染症センター都立駒込病院 外科部長

研究要旨

S-1+MMCによる根治的化学放射線療法によりCRが得られた肛門管扁平上皮癌の一例を経験した。Grade 3の白血球数減少、好中球数減少、放射線皮膚炎を認めず、安全性と有効性に優れていた。3年6ヶ月間、再燃・再発を認めていない。

A．研究目的

肛門管扁平上皮癌に対するS-1+MMCを用いた根治的放射線療法の推奨投与量の決定および安全性、有効性について検討を行った。

B．研究方法

当院からは50代の初発肛門管扁平上皮癌の女性を登録。プロトコールに従って、S-1+MMCを用いた根治的放射線療法を行った。

（倫理面への配慮）

研究計画は当院の倫理委員会で審議され、承認を受けている。

C．研究結果

2010年7月よりS-1+MMCを用いた根治的放射線療法を開始。経過中、白血球数 $1500/\text{mm}^3$ 、好中球数 $830/\text{mm}^3$ と共にGrade 3の有害事象を認め、化学療法の延期を要した。8月下旬までに59.4 Gy/33frの放射線照射を行った。非血液学的毒性としてGrade 3の放射線皮膚炎を認めたが、用量制限毒性は認めなかった。

初回の治療効果判定において病変の存在を認めず、一ヶ月後の再検査でCRを確認した。2014年1月現在、病変の再燃・再発を認めていない。

D．考察

S-1+MMCによる根治的放射線療法によりCRが得られた肛門管扁平上皮癌の一例を経験した。Grade 3の白血球数減少、好中球数減少、放射線皮膚炎を認めたが、用量制限毒性の発現は認めなかった。

E．結論

S-1+MMCを用いた根治的放射線療法は安全

性と有効性に優れており、有用な治療法と考える。

F．健康危険情報

なし

G．研究発表

1．論文発表

なし

2．学会発表

なし

H．知的財産権の出願・登録状況

1．特許取得

なし

2．実用新案登録

なし

3．その他

なし